



## カンボジアの子どもたちに教科書を

2016年1月 No. 55

カンボジア便り

市井秀治

### ～目 次～

カンボジア便り	1～2
・その後の支援校の卒業生たち	
・新学年度教科書配布	
ボランティアさんの感想	2～7
・グローバルフェスタ 2015	
・アジア文化会館秋祭り	
事務報告	8

### その後の支援校の卒業生たち (2)

前回に引き続きアジア未来学校の卒業生の今をお届けします。

Ung Sovanara 君

彼は、前回ご紹介した Ung Sovanarith 君のお兄さんになります。アジア未来学校を卒業した後、中学校に進み、昨年高校も卒業しました。現在は、プノンペンの私立大学の経営学部の1年生です。勉強を続けられることがとても幸せで、両親の学費支払いの負担を減らすために今は仕事も探しているとのこと。写真の女性はお母さんで、衣類工場で働いており、お父さんはバイクタクシーのドライバーをしています。ご両親は子ども達が勉強が好きで成績も良いのがうれしい反面、学費を稼ぐのにとっても苦労しているとのこと。



Ung Sovanara 君とお母さん

### 新年度の教科書を配りました

カンボジアでは新しい学年度が始まり、当会は今年はクメール語の教科書 2,144.27 ドル分を、これまで支援してきた 11 校に贈りました。また、識字学校に関しては、現在小学校 1 年生～3 年生に相当するクラスで 25 人、5・6 年生に

相当するクラスで 15 人が元気に学んでいます。



教科書を子どもに手渡す

識字学校で元気に学ぶ子ども



## ボランティアさんの感想

中国人の私が日本で・・・

～グローバルフェスタにボランティアで参加して～

関東国際高校 姜 雷(きょう れい)

私は、日韓アジア基金のボランティア をする前に、一度も国際交流のようなボランティアをした事がありませんでした。私は学校の夏ボランティアのパンフレットで、国際交流ボランティアを探しました。私が国際交流を探した理由は、

何をしたら発展途上国の子供たちを手伝うことができるかと考えていたからです。

その時、日韓アジア基金を見つけました。日本人と韓国人が共同して活動する組織は珍しいと思いました。さらに紹介をみると、カンボジアの子供たちの教科書のために募金をする活動だとわかりました。よく駅で募金活動をしているのを見た事があるけれど、カンボジアの子供たちのために募金をする組織は、見た事がありませんでした。しかも、日本人と韓国人が共同してカンボジアの子供に募金をするなんて、めったにないことです。私はそれにとっても関心を持ちました。

私は中国人です。政治の上で日・中・韓の三ヶ国は、あまり仲良くない事を知っています。しかしこの三ヶ国の人々がカンボジアの子供のために、一ヶ所に集まって活動をしています。国を越えて協力する事にとっても興味を持ちました。本当に勉強になると思います。

私は、まだうまく日本語が話せない恥ずかしさを越えて、積極的に様々な方と募金について話し合いました。その時自分が学習した日本語を、カンボジアの子



供たちのための募金活動に生かされたことに、とてもやりがいを感じました。

百三十五円というわずかな金額で、カンボジアの子供に一冊の教科書を与える事ができます。そして、その子供は、一冊の教科書があるだけで、将来を変える事が出来るかもしれないのです。さらに、その一冊の教科書のおかげでカンボジアの将来を、発展途上国から

### 日韓に中国人も参加して

先進国にする可能性もあります。この募金活動をとおして、将来カンボジアが変貌することを楽しみしています。

### グローバルフェスタに参加して

大野勝弘

世間では「話し合っても無駄」「所詮どうすることもできない」という言葉を(特にネットなどで)よく見聞きします。話し合う努力や、外への興味関心をはじめから投げ出して、ひたすら自分の殻にこもるような雰囲気、SNSなどでも感じていました。

「とにかく色々な人と知り合ってみたい！」 私が、アジア文化会館や日韓アジア基金の存在を偶然ながら知ったのは、このような気持ちに駆られてのことで

した。グローバルフェスタへの参加を決めたのも、単純に「外の世界に目を向けている人たちが沢山いそう！面白そう！」という非常に大ざっぱな興味を感じてのことでした。

実際に活動に参加したのは日中の一日間だけでしたので、気が付けばほとんどの時間をブースでの募金声掛けと、休み時間に他のブースをぶらつく程度で終わってしまいました。帰り途では正直後悔の気持ちが残ったのですが、それでもこの数時間の活動は、新鮮な驚きの連続でした。

まず、特設ステージには見るからに偉そうな先生方や有名アーティストが登壇し、その規模や参加者数の大きさ、そして何より「世代の若さ」に意外さを感じました。過疎地域で生まれ育った私の至極勝手なイメージとして、「社会活動もしくは政治活動などは高齢な方々が主流だろう」という印象を持っていたので、日韓アジア基金のボランティア参加者が、ほとんど私と同年齢もしくは年下の方々が多くとても驚きました。

また他団体についても大学を超えて活動し、毎年数回開発途上国に出向く学生団体と接して、若い彼らの理解の深さに、己の浅薄さが恥ずかしくなるほどでした。



充実した一日に自然と笑みもこぼれて

また、各団体の支援対象の「きめ細かさ」もとても興味深いものでした。

例えば「ネパールの女性障がい者への支援」というボランティアブースを拝見しました。古い伝統を持つ地域では女性の地位が低いことなどは想像しやすいですが、さらに地域で女性としての役割を果たせない女性障がい者の存在を救済しようとする発想は、その現地の情勢を深く理解していないと見出せません。

カンボジアのボランティアにしても、「学校を建てる」「井戸を掘る」などの大規模な活動は聞いたことがあったのですが、日韓アジア基金の「不足教科書の支援」というニッチさに、小規模NPO団体の必要性を強く感じました。

私は、このようなボランティア活動は今回が初めてで、これからももっと広く多くの人たちとふれ合い接していきたいと思っています。今回の活動を偶然知ることができたこの縁を大事に、また日韓アジア基金の活動に参加していきたい所存です。

## 暑い日の募金活動

～グローバルフェスタにボランティアで参加して～

中学1年 北爪 椋祐

僕は、ボランティア当日友達と待ち合わせてグローバルフェスタの会場へと向かった。フェスタ会場につくと、そこで待ち伏せていたのは、「暑さ」という名の敵だった。「暑さ」が見ている中、僕たちは「カンボジアの子供たちに教科書を」と書かれたグループ専用のTシャツを着た。

Tシャツは厚くて着ると暑さで体が干からびるのではないかと不安になった。



暑さをものともせずに

しかしいざ着てみると、暑さよりもやる気がみなぎってきた。

僕たち14人は暑さの中、行動し始めた。が、シフトがまだだったので、暇になってしまった。僕は友達を連れて会場を回った。会場には僕ら以外にもカンボジアの子供を支援しているところがあって、カンボジアがどれほど深刻な状況になっているのか実感した。

シフトの順番が回ってくると、僕は募金箱を首にかけ、カンボジアの状況などが書いてある紙を配り、たくさんの人にカンボジアの支援、募金を求め声をかけた。中には無視して通り過ぎてしまう人たちもいた。紙を受けとってもらえなかった悲しみよりも、カンボジアのことを何もわからないで、通り過ぎていく人間に失望した。中には、関心を持って詳しく聞いてくれる人や、カンボジアの状況を理解した上で募金してくれる方々もいた。

シフトを代わる時間になったので、募金箱を首から外そうとしたらひもが濡れていることに気が付いた。汗だ。暑さのせいではなく、僕らが頑張ったから出た汗だ。が、やはり人間暑さに勝てず僕は熱中症になりかけてしまった。みなさん優しく水をかけてくださり、楽になった。

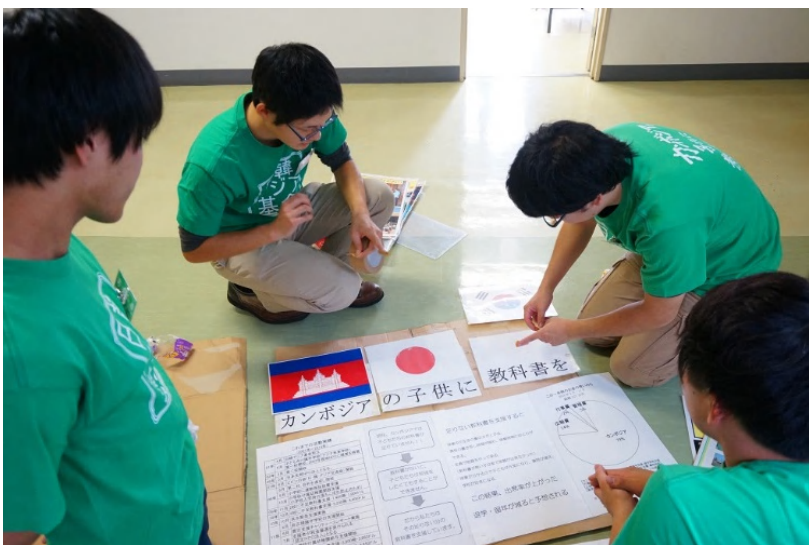
ドーナツをおやつにとスタッフの大澤さんが買ってきてくれた。「仕事の後の食べ物は最高」と思いながら、ドーナツを口にほおぼった。ソルティライチを口に含み、また、会場を回ることにした。いろいろな国からの食べ物が集まっていて面白かった。中でも、アジアの焼き鳥が注目を浴びていた。

一日が終わってかたづけを始めた。あたりはすっかり暗くなって、寒く体が冷えた。無事募金が順調に進み一歩進めた気がした。

## 「初！秋祭り」 ～アジア文化会館秋祭りをお手伝いして～

学生 佐々木 颯

私は愛媛在住です。就職活動中に頻繁に東京を訪れていたのですが、ひょんなご縁から今回のアジア文化会館の秋祭りのお手伝いをさせていただくことになりました。秋祭りの前日、私は浜松町で面接を行っていたのですが大澤さんより度々「本当に参加できるの？」と確認してきたこと



ブースの飾りつけ・頭を寄せ合って

は今でも記憶に新しいです。私はこのようなイベントに参加することが好きですので参加できたことを誠に嬉しく思っております。

大学でもあまり韓国と関わる機会がなかったためか、今回の運営補助はとても新鮮に感じられました。中でも、韓国茶の試飲ということが一番惹かれていました。と、言いますのも、恥ずかしながら「韓国＝キムチ」しかない、という構図でしたのでこのお茶も試してみるまでは「このお茶も辛いのか…？」と、冗談半分、本気半分で試飲を行いました。と、とても飲みやすくおいしかったです。

このイベントで印象に残っているのは、やはり子供たちとの触れ合いでしょう。私が思っていた以上に子供の参加者が多くてびっくりしました。韓国茶の配布を行っているときに、韓国茶のお代りを求める子供や、私と一緒にハイタッチしてくれた子など、就職活動中の束の間の幸せなひと時を感じました。

また、シフトの休憩中に秋祭りのほかのブースのところにお邪魔させていただきましたが、本当に色々な国から留学に来ているのだなと感じました。中でも、ケニアから留学に来ているのには驚きました。色々なブースで各国の料理を食べさせていただきましたが、日本にいながら世界一周旅行をしているような気分になりました。それはこのイベントが終わった後の懇親会に参加した時も、そのように感じました。知らない国の文化を知ることはやはり楽しいと感じました。

最後に、一緒にイベントを手伝ってくださった皆様、やさしく接していただき誠にありがとうございます。私自身最初は「今日のメンバーと仲良くできるかなあ…」と思っていましたがそれは杞憂でした。とても楽しませていただきました。またこのような機会がございましたらお呼び頂けたらと存じます。



当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・五十音順)

2015年9月6日 ニュースレター55号 発送作業

有田泰子・井手由梨子・江戸裕美・尾谷恵・菊田明日美・キムドゥヒョン・佐藤宏明・武居真穂・千葉まゆみ・丸山謙二・村澤友梨・山下周平・山田翔斗 (13名)

2015年10月3・4日 グローバルフェスタ・ブーススタッフ

稲垣瑞恵・井濱沙織・岩田大和・宇野浩平・大野勝弘・北爪椋祐・金ドゥヒョン・姜雷・霧山祐司・申自然・砂田菜波・中本紗生・根津祐希・藤林右京アレックス・松本里菜・李遵・若松 晴美 (17名)

2015年10月3・4日 アジア文化会館秋祭り

井手由梨子・稲垣瑞恵・井濱沙織・黒坂悠紀・小池拓也・小宮友輔・佐々木颯・中渕 翔太・中本紗生・濱田頌大・若松晴美・和田実佐子(12名)

2015年12月19日 第23回ビビンの会

稲垣瑞恵・井濱沙織・金ドゥヒョン・姜雷・久保田裕美・小森新・申自然・福島未来・霧山祐司・ノック(Waraporn Teetuna)・イヒス(11名)

2015年8月7日～2015年12月15日に会費・ご寄付を下さった方 (敬称略・五十音順)

芦田 多喜男	高橋 政行	チラタ会	福本 正勝	森 健造
大塚 紀子	高柳 直正	塚本 美和子	堀場 秀亨	谷池 教子
工藤 早苗	武之内 教男	長谷川 興	丸山 芳彦	渡邊 京子
坂口 博	丹下 誠司	福島 忠男・シゲ	三木 紀昭	

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)  
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)  
法人会員:年会費1口10万円  
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153

口座名 日韓アジア基金

- ・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権があります。
  - ・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。
- ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問合せ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内  
Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)  
E-メール: [jkaf@iloveasia2.sakura.ne.jp](mailto:jkaf@iloveasia2.sakura.ne.jp)  
HP: <http://www.iloveasiafund.com>

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也